

あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議

第15回 議事概要

日時	2024年12月13日（金） 13:30～17:30
場所	唐戸市場 2階会議室
参加者（委員）	HBP・KAM 共同事業体： 吉田、木村隼、木村大、清原、安本、有賀 専門家：熊谷、榎本、大橋、長町 地域事業者：郷田、阿部、原田、立川 事務局：北島副市長（事務局長） エリアビジョン推進室 内田、田中、平山、村上

1. 交通・駐車場に関する検討

デザイン会議榎本委員より資料に基づき説明の上、議論

- アンケートでも「近く」の駐車場を望む声が出てはいるが、広大な施設だと500メートルくらい歩く駐車場がある中で、「近く」の感覚はどのようにとらえるべきか。
→目的による。今の目的はお寿司を買う目的が中心でスーパーやドライブインに行く感じが近いので、市場棟と駐車場棟までが「近く」という感覚じゃないか。「アウトレットに行く」なら話が違うと思うので、そのあたりはエリア全体の魅力造成にもかかってくる部分。
- 今回の議論はあくまでも臨時寺駐車場のアンケートだが、昨年度との比較で市役所とか赤間の利用が増えている。全体の渋滞対策の目線では違うかもしれないという前提で数字を見る必要がある。
- 駐車場棟や市場棟の人はどうなのかを知りたい。市場駐車場に関しては60分未満の利用が中心かもしれないので、突き合わせていく必要がある。
- 既存の市営駐車場及び今後作るものに関しては長期的な視点での方針が必要ではないか。利用料金の傾斜・収益のエリア還元なども含めて。そのあたりの議論は誰が旗を振るのか、も重要。

2. モバイルユニットの実現に向けて

下関市イノベ課より関係機関との協議状況について共有

- まずは社会実験の実施に関して合意を得ていくことが必要であるが、同時に、社会実験のための社会実験でなく、常設に向けた実証であるという視点で、検証項目など共通認識を持っていく必要がある。

3. 社会実験の報告と今後の展望について

デザイン会議木村大委員より資料に基づき説明の上、議論

- 夜景クルーズについて、事前の調整がもう少しできれば良かったが、今回は陸側での夜間景観演出はない状況での実施となった。このため、今回のアンケート等の位置づけとしては、演出前の基礎検証ができたという位置づけで理解する方が正確である。
- 歴史クルーズについては、陸のコンテンツとの連動が今後の課題。
- パレットについて、見回りもして、実際にはゴミはそんなに無かったような印象だったが、一般の方からは「ゴミがあった」という声もあった。実情と印象とがあるので、そのあたりは注意しながら進めたい。

- 遊具については、利用者が動かして、照明ととんとんズレていった点に対応が必要。また、今回はレンタルで実施したが、常設に向けてはカラーのコードなどデザイン検証も必要。
- 全体として、地先連動型のコンテンツが評判が良く、逆に地先事業者が参加しないと淋しい印象になる。地先事業者の巻き込みが必須。
- アドタワーについては印象が弱かったかもしれない。アドタワーは「活用」面で利用する方向のものだが、モニュメントと考えるのであれば、ハードデザインでポート&フラッグなどで検討すべき内容であったかもしれない。

以上